

屈辱糧に2年ぶり歓喜



【和歌山箕島球友会—大和高田ク】延長タイブレーク十回裏和歌山箕島球友会1死満塁、水田がサヨナラの右前適時打を放ちガッツポーズ
—メットライフドームで、長谷川直亮撮影

和田投手MVP 日本選手権1勝目指す

クラブ野球 箕島球友会V4

昨年の屈辱を糧に4度目のV―。第42回全日本クラブ野球選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催）最終日の4日、メットライフドーム（埼玉県所沢市）で準決勝、決勝があり、西近畿代表の和歌山箕島球友会は準決勝でゴールドジムクラブ（関東・東京）、決勝で大和高田クラブ（東近畿・奈良）を降し2年ぶり4回目の優勝を果たした。最高殊勲選手賞は準々決勝と決勝で完投勝ちした2年目の和田拓也投手（23）。箕島球友会は社会人野球日本選手権大会への5回目の出場も決めた。
【木原真希】

▽準決勝
和歌山箕島球友会
1000100000012
000000000011
ゴールドジムク
（和）寺岡水田（古）北見
中川涼八巻（二塁打）岸
水田（和）、田中（古）

試合は九回までスコアボードに0が並んだ。2安打無四球に抑える和田投手の母ゆかりさん（53）は、「けが続きだったので、どきどきして見てられな」と祈るような表情でグラウンドを見つめ

▽決勝
大和高田ク
00000000000032
00000000000032
和歌山箕島球友会

続けた。しかし、1回戦で20得点の打線はここまで4安打と沈黙し、均衡を破れない。延長十回、大会規定で1死満塁からのタイブレークが始まり、表の守備で2失点。しかしその裏、最初に打席に入った水田信一郎捕手（29）は、今春結婚した妻明佐さん（28）が来春に誕生予定のおなかの子と共に見守る前で、フォークボールをうまくすくって右前にサヨナラ適時打を放った。

「エース完全復活」証明

○…「今年一番の投球でした」。準決勝でゴールドジムから12三振を奪って完投勝ちした寺岡大輝投手（24）は満足げな表情を見せた。テンポの良い投球で五回まで安打を許さなかった。中1日の登板だったが疲労を感じさせず、生命線の速球は最速147kmを記録した。「決勝で投げたかったけど、準決勝で勝たないと意味がない。気持ちを切り替えた」。大会2勝を挙げ、昨年のけがから「エースの完全復活」を印象づけた。

一昨年の3回目の優勝で、昨年は西近畿の出場枠が二つに増えたにもかかわらず、気持ちの緩みもあってまさかの予選敗退。「昨年の悔しさをぶつけ、結果を出す」と西川忠宏監督（56）と選手が何度も口にしてきた言葉が最高の形で現実のものとした。
ナインが喜びの輪をつくる中、西川監督は「ここに来るのが最終目標ではない」ときっぱり。林尚希主将（27）も「日本選手権で企業チーム相手に技術、気持ちで負けず、悲願の1勝を目指し貪欲に戦う」と力強く語った。